

青森県弘前市における「弘前さくらまつりの外国人観光客を想定した避難誘導訓練(概要)」

- ◎ **開催日**：平成31年4月11日(木)
- ◎ **開催場所**：弘前公園（市民広場）、弘前市立観光館
- ◎ **参加団体等**：
 - 1 弘前市・さくらまつり関係団体等
弘前市（防災課・観光課・公園緑地課・国際広域観光課）、弘前警察署、弘前市観光コンベンション協会、弘前市物産協会、弘前商工会議所、弘前市観光ボランティアガイドの会、弘前市みどりの協会、弘前市赤十字奉仕団、ベトナム人技能実習生（外国人観光客役28名）
 - 2 弘前大学人文社会科学部社会言語学研究室
 - 3 公益財団法人青森県国際交流協会
- ◎ **協力団体**：一般財団法人自治体国際化協会（クリア）

取組の概要

- ▶ 「弘前さくらまつり」の開催中に震度6弱の地震が発生した想定で、地震に不慣れな外国人観光客に対し、関係者が地震が発生したことを伝達するとともに、避難所である弘前市立観光館まで、簡単な単語とわかりやすい文章による「やさしい日本語」で避難誘導・支援することを目的に実施された。
- ▶ 訓練には、弘前大学佐藤和之教授（人文社会科学部社会言語学研究室）が監修する「やさしい日本語」での誘導方法を学んだ観光ボランティアガイドや市職員等が誘導役として、また、来日間もないベトナム人技能実習生が外国人観光客役として参加した。
- ▶ 避難所では、クリアがホームページ上で多言語提供している「避難者登録カード」のベトナム語版が活用された。氏名や国籍、体調、宗教上等の理由で摂取できない食品等の確認などをして、外国人避難者受け入れのシミュレーションを行った。

訓練の内容

① 避難誘導訓練

防災行政無線の音声や誘導員が持つボードの文字にも「大きな地震です。自分の体を守ってください」、「逃げる ところ」などの「やさしい日本語」が使われた。誘導員は、防災行政無線の指示に従いながら、「やさしい日本語」で外国人観光客を避難所まで誘導した。



「やさしい日本語」を使用した避難誘導の様子

② 避難者登録カードの活用

避難所では、ベトナム語版の「避難者登録カード」を外国人観光客に直接記入してもらうなど、外国人避難者受け入れのためのシミュレーションが行われた。



「避難者登録カード」
(ベトナム語版)に記入

取組の成果

- ▶ 来日間もない日本語が堪能でないベトナム人技能実習生が外国人観光客役として実際に訓練に参加した。安全な施設への避難誘導が無事に行われたことで、災害時の「やさしい日本語」による情報伝達が、日本語に不慣れな外国人に有効であることを確認した。
- ▶ 誘導役の日本人関係者が、実際に日本語に不慣れな外国人の避難誘導を経験をしたことで「やさしい日本語」で外国人の避難誘導ができるという実感を得られたことが確認された。
- ➡ 以上のとおり、地震などの災害時における「やさしい日本語」の有効性が確認された。

弘前市の今後の取組

今回の訓練では、前述のとおり成果が確認できた。今後は、外国人観光客役と誘導役のそれぞれに対して行ったアンケート調査の結果を踏まえて、引き続き関係機関と協議しながら段階的に訓練を実施することにより、安心できる安全な観光地づくりに向けて取り組んでいくこととしている。

(参考) 関連サイトについては、以下から確認できます。

- ◎ 「やさしい日本語」の作り方や文例集のサイト（弘前大学人文社会科学部社会言語学研究所）
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/index.html>
- ◎ 一般財団法人自治体国際化協会（クリア）が多言語で提供している「避難者登録カード」
<http://dis.clair.or.jp/open-data/dis-evacuee-card/index/1>
- ◎ 総務省消防庁が2018年3月に策定した
「外国人来訪者や障害者等が利用する施設における災害情報の伝達及び避難誘導に関するガイドライン」
https://www.fdma.go.jp/singi_kento/kento/items/kento207_68_gaidorain.pdf
- ◎ 観光庁が2014年10月に策定した
「訪日外国人旅行者の安全確保のための手引き ～地域防災計画等に訪日外国人旅行者への対応を記載するための指針～」
<http://www.mlit.go.jp/common/001058528.pdf>